



ニュースレター「OMOTESANDO HILLS PRESS」は、『文化』『環境』『人』『商業』の4つの視点から、表参道ヒルズの“今”をお届けします。

WALT DISNEY 110th Anniversary OMOTESANDO HILLS Christmas 2011 Stars of Dreams with Panasonic Beauty

表参道ヒルズは、“DREAM”をテーマに、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社と商品展開を始めとするクリスマスプロモーションを行います。2011年12月5日、生誕110周年を迎えるウォルト・ディズニーは、数々の苦難に直面しても、決して諦めることなく夢と未来を描き続け、実際に夢を叶えてきました。その生き方には、今の時代にも多くの人々に共感して頂ける大切なメッセージが、たくさん詰まっています。そんな彼の人生を振り返り、その魅力をご紹介します。

OMOTESANDO HILLS Christmas 2011

2011年、日本は、東日本大震災やその影響による節電、政治不安など、精神的にも経済的にも、大きな不安に包まれました。2012年へと歩み始めるクリスマスシーズンを迎えるに当たり、表参道ヒルズは、人々に“夢”をもって前向きに楽しいひとときを過ごしてほしいとの願いを込めて、“DREAM”をテーマに、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社とのライセンス契約に基づいた商品展開を始めとするクリスマスプロモーションを実施します。表参道ヒルズ 館長 穂山壮志は、今回のプロジェクトについて次のように語ります。

「ウォルト・ディズニーは、2度の世界大戦など様々な苦難を抱えた時代に、“If you can dream it, you can do it. (夢を持ち続けられる人は必ずそれを叶えられる)”という信念を持ち、決して諦めず何事にも前向きに取り組んできました。表参道ヒルズは、そんな彼の生き方に共感し、この度の共同プロジェクトに至りました」

常に夢を追い求め、不可能を可能にしてきたウォルトの人生には、現代に通じる大切なメッセージが込められていました。



© Disney

Walt Disney History 提供：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

絵の才能の片鱗を見せた、貧しい少年時代

ウォルト・ディズニーは、1901年12月5日、アメリカ・シカゴで生まれました。定職を求めて国内を転々とする父親について、貧しい少年時代を過ごしたウォルトでしたが、幼少期から絵を描くことに興味を示し、7歳で自分のスケッチを近所の人たちに売るなど、その才能の片鱗を見せていました。15歳になると、高校だけでなく美術学校にも通い、本格的に絵を学びます。

第一次世界大戦が勃発してからは、赤十字の救急隊に入隊。戦時中も、兵士のウィンドブレーカーに勲章をペイントしたり、ヘルメットや兵舎の小型トランクに色をつけたりと、得意のイラストで兵士たちを喜ばせました。

アニメーションとの出会い

17歳で除隊し帰国してからは、漫画家を志して、兄ロイの紹介で広告会社に就職します。ここで、長年のパートナーとなるアブ・アイワークスに出会います。広告会社を失業した後、二人はデザイン会社を創立しましたが、生活は苦しく、ウォルトは映画会社カンザスシティ・フィルム社でアニメーターとして雇われたため、会社は長続きしませんでした。しかし、ここで短編アニメの作画を担当し、次第にアニメーターの資質を開花させていきます。アニメ制作を本格的に開始するべく、独立して個人事務所を設立。アイワークスを呼び寄せ、映画産業の頂点に立つことを胸に誓いました。この時、ウォルトは弱冠20歳でした。

ハリウッド進出後の悲劇

その後、アイワークスとの個人事務所は、資金のやり繰りに失敗し倒産。再起をかけて、ハリウッドに進出したウォルトは、兄ロイとともに「ディズニー・ブラザーズ社」を設立しました。そこで生まれた、実写の人間とアニメーションを織り交ぜた「アリスコメディシリーズ」は大変な人気を博し、成功を収めます。さらに1927年、興行師チャールズ・B・ミンツと知り合い、自社キャラクターとして、ウサギの“オズワルド”を考案。上映開始とともに大ヒットとなり、ディズニー社は全米屈指のアニメ制作会社へ急成長しました。しかし、この成功の影でウォルトは悲劇に見舞われます。オズワルドシリーズの再契約のため、ミンツに資金援助を申し入れると、法外な配給手数料を要求してきたのです。これを拒否すると、ミンツはアニメーターの引き抜き仕事を仕掛け、スタッフの多くがこれに応じてスタジオを去りました。さらに、契約上、配給会社の管理下にあったオズワルドの著作権まで奪われてしまったのです。

ミッキー・マウスの誕生

ディズニー社の再建を決意したウォルトは、オズワルドに代わる新しいキャラクターに、過去の作品に敵役として登場していた“ネズミ”のキャラクターを思い出します。「モーティマー・マウス」と名付けられたキャラクターは、妻の助言により「ミッキー・マウス」に改名、後にその名を世界中の誰もが知ることになります。音声と映像を合わせる技法を効果的に使用した世界初のトーキーアニメ「蒸気船ウィリー」が公開されると、ミッキーシリーズは大ヒット。オズワルドを凌ぐ人気キャラクターとなり、世界的な知名度を得るのです。



©Disney

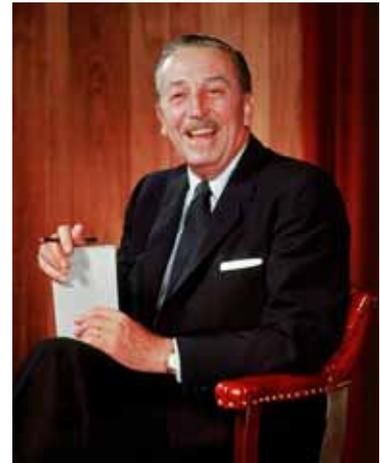
戦時下も、名作を生み出し、世界中に希望を与えたウォルト

1932年、世界初のフルカラーアニメーション「花と木」でアカデミー賞を受賞。その後、世界初の長編アニメーション「白雪姫」の公開に続き、「ピノキオ」、「ファンタジア」など、数々のヒット作を生み出します。しかし、時代は第二次世界大戦の最中。政府や軍の命令でプロパガンダ映画の制作を行い、商業映画には手がつけられませんでした。また、海外の映画市場が閉鎖されたことで資金は底をついてしまい、窮地に追い込まれます。この状況を打開し、戦時下で暗く落ち込む人々に希望を届けるためにも、ウォルトは莫大な資金と時間がかかる長編アニメの制作を決意します。こうして生み出された「シンデレラ」や「ピーターパン」は大成功を収めました。笑いと涙の要素が散りばめられた物語に、観客たちは感情移入し、映画から希望の光を見出したのです。

ウォルトは、アイディアマンとしてアニメーションの基礎と神髄を造り上げ、世界中から愛されるキャラクターを数多く生み出しました。決して順風満帆な人生ではありませんでしたが、どんな状況でも諦めず希望を抱き、何事にも前向きに取り組み、夢を実現してきたウォルト。その生き方は、今でも世界中の人々に夢と希望を与え続けています。

WALT DISNEY 110th Anniversary

ウォルト・ディズニー生誕 110 周年を迎える 2011 年の現在も、ウォルトのメッセージ、そして想いは生き続けています。その 110 周年を記念して、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社では様々なプロジェクトを展開します。第1弾として、表参道ヒルズのクリスマスシーズンに合わせて、110周年商品の展開を始めとするプロモーションを実施。ウォルト自身をテーマにした、この先 10 年以上はできない、初めての取り組みを実施していきます。



©Disney

表参道ヒルズの吹抜け大階段には、“Dream Magic Christmas ~ 幸せな魔法にかけられて ~”をデザインコンセプトに、ウォルト・ディズニーの誕生会とクリスマスパーティーをディズニーのキャラクター達がお祝いしているイメージのクリスマスツリーが登場。表参道ヒルズに集う人々が、夢と希望で幸せな気持ちになるような空間を演出します。また、館内店舗では、“Message from Walt”をコンセプトに、ウォルトの名言やミッキーマウスなどのキャラクターのほか、挫折と復活の象徴でもあるオズワルドなどを素材にしたジュエリーやバッグ、Tシャツなどの商品を展開します。

今回のプロジェクトには、ウォルトの周年企画だからこそできる、商品化のストーリーやテーマが散りばめられています。特別な意味を持つプロモーションを表参道ヒルズで展開する意味について、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社の担当者に伺いました。

「感度が高く、トレンド性に溢れた話題の発信場所といえる表参道ヒルズで、生誕 110 周年の商品展開と販促キャンペーンを実施することは、ディズニーの活動との相乗効果を生み出し、より多くの方々に多面的なアプローチが可能になるという、大変重要な意味を持つと考えています。クリスマス期間中、表参道ヒルズへ訪れたお客様には、ディズニーの商品やプロモーションを通じて、実際にウォルトが信じ、実践してきた言葉である“夢を持ち続けられる人は必ずそれを叶えられる”というメッセージを感じて頂き、“夢”を持つことの大切さを改めて実感して頂きたいです」

今年のクリスマスは、ウォルト・ディズニーの“夢”に溢れた表参道ヒルズで、幸せの魔法にかかった世界をお楽しみください。

< 表参道ヒルズ クリスマスイルミネーション 開催概要 >

タイトル : **WALT DISNEY 110th Anniversary**
OMOTESANDO HILLS Christmas 2011
Stars of Dreams with Panasonic Beauty

開催期間 : 2011 年 11 月 2 日(水) ~ 12 月 25 日(日)

開催場所 : 表参道ヒルズ 本館 吹抜け大階段、メインエントランス 他

ツリー点灯時間 : 11:00 ~ 23:00(一部異なります)

問合せ先 : 03-3497-0310 (総合インフォメーション)

- 内容に関してのお問合せ、画像をご入用の際には、下記までご連絡頂きます様お願いいたします。
- 画像掲載の際は、コピークレジット「Disney」の記載をお願いいたします。
- このニュースレターの記事は、本文をご自由にご利用下さい。

本件に関する報道関係の方のお問合せ先

表参道ヒルズPR事務局: 木暮・高橋

TEL 03 - 5775 - 1560 FAX 03 - 3403 - 0436

森ビル株式会社 表参道ヒルズ運営室 セールスプロモーショングループ: 北川・熊谷

TEL 03 - 3497 - 0292 FAX 03 - 3497 - 0318